

はじめに

この文書は、Cache-Aシステムを初めてお使い頂く場合のクイックスタートです。詳細な操作方法は、本体に付属のマニュアル（英語）をご覧ください。実際の運用上の注意点や技術的な情報は「Cache-A技術解説書」参考にしてください。

接続する

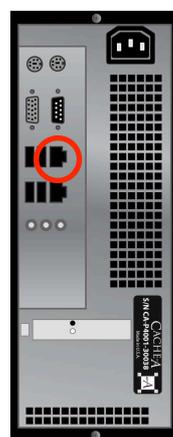
Cache-A製品はオールインワンシステムです。必須な接続は以下の2つのみで、最小限の配線で運用できます。

- ・ 電源ケーブル
- ・ イーサネットケーブル

※イーサネットポートは2つありますが、GUIで設定可能なのは1ポートだけです。通常は、Pro-Cacheの場合は向かって右側、Prime-Cacheの場合は上のポートをお使いください（図）初期設定ではDHCPサーバからIPを取得するよう設定されています。



Pro-Cache



Prime-Cache

オプション接続

必要に応じて下記機器を接続して、Cache-A単体でも設定や管理を行うことができます。

- ・ VGAモニター
- ・ マウス
- ・ キーボード

電源を入れる

電源を投入する場合は、電源ボタンを押すだけです。Cache-AシステムはLinuxで動作しているため、起動完了までに2分程度かかるので注意してください。起動時にVGAモニターを接続していれば、起動プロセスを確認することができます。

管理画面にログインする

Cache-Aシステムを使い始める前に、管理画面から設定内容の確認を行って下さい。また、テーブルの内容を検索したり、テーブルからリストア作業も管理画面から行うことができます。

Cache-Aシステムの管理画面にログインするには、2通りの方法があります。

1) ネットワーク上の端末からログインする

同一ネットワーク上の端末からログインする場合は、Webブラウザを使用します。推奨ブラウザは、Safari、FireFox、Chromeです。Internet Explorerはダイアログの文字が表示されないなど、完全に動作しない場合があります。

本書では、SafariのBonjourを利用した簡単なログイン方法を説明します。この方法は、Cache-Aシステムに割り振られたIPアドレスがわからない場合や、ネットワーク上にDHCPサーバーが動作しておらず、Cache-Aシステムが自己割当IPで動作している場合でも簡単にログインすることができます。

SafariとBonjourを使用して簡単にログイン

※Windowsの場合、Apple社からSafariをダウンロードしてご利用ください。

- (1) Safariを起動する
- (2) BookMarkボタンをクリック
- (3) Bonjourの欄をクリック
- (4) archive xx Developer Webをダブルクリック ※xxはシリアル番号の末尾2桁
- (5) 「ID : cache」 「パスワード : cache123」 を入力してログイン

Safari以外のブラウザを使う場合

Safariが使用できない場合など、他のWebブラウザを使用する場合は、192.168.xxx.xxxのようにIPアドレスを入力して管理画面にログインしてください。IDとパスワードは上記(5)を参照してください。

※DHCPによって割り振られたIPが不明で、Safariも使用できない場合は、次に紹介する手順でCache-A本体から管理画面にログインして下さい。

2) Cache-A本体からログインする

本体にVGAモニタとキーボード、マウスを接続すれば、Cache-A本体から管理画面にログインする事ができます。Cache-Aシステムの起動が正常に完了すると、VGAモニタにはログインプロンプトが表示されます。

- (1) rootアカウントでログインする (パスワード : cache123)
- (2) GUIが起動したら、FireFoxのアイコンをクリック
- (3) ログインページが表示されたら 「ID : cache」 「パスワード : cache123」 を入力してログイン

設定内容を確認する

管理画面にログインできたら、使いはじめる前に、Cache-Aシステムの動作状況や設定内容を確認して下さい。

システムの動作状況を確認する

ユーザメニューから「System Status (システム設定)」を選択します。表示された画面上で内蔵ドライブ、LTOメディア、サーバー、VTAPEについてのステータスを確認できます。LTOメディアを挿入していない場合は、この画面でLTOメディアにエラーが表示されていても問題はありません。また、現在のIPアドレスを確認することもできます。



バージョンを確認する

ユーザメニューから「Version (バージョン確認)」を選択すると、Cache-Aシステムのバージョンが表示されます。最新のバージョンはWebサイト (<http://www.ask-dcc.jp/cache-a/>) から確認することができます。古いソフトウェアバージョンが表示されている場合は、販売店にお問い合わせ下さい。

ネットワーク設定を確認する

管理者メニューの「Network Setting (ネットワーク設定)」を選択すると、ネットワーク上でのCache-Aシステムの名称やIPアドレスの設定が可能です。また、「Network Service (ネットワークサービス)」タブからネットワーク上で提供するサービスの開始と停止を行うこともできます。

タイムゾーンの確認をする

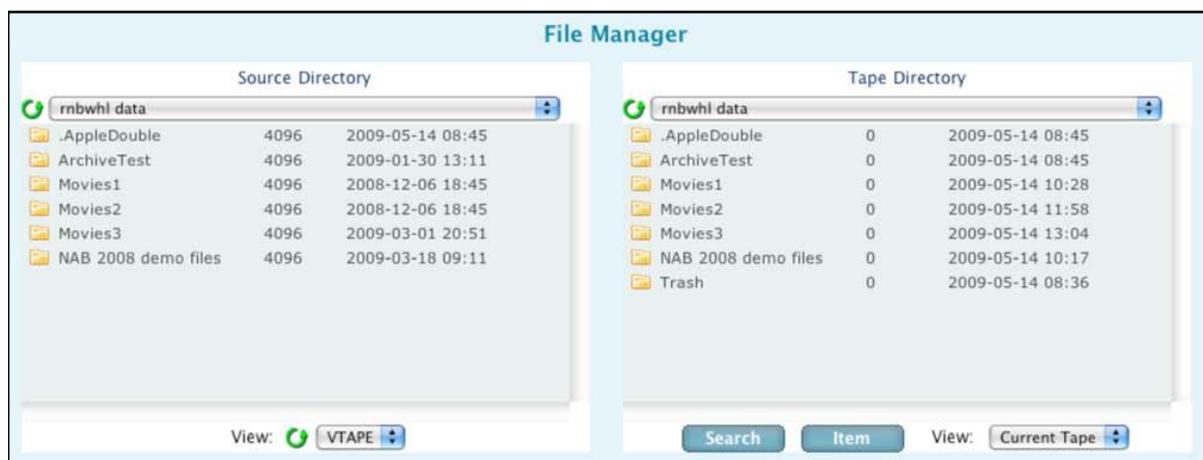
管理者メニューの「Date & Time (日付と時刻)」を選択し、タイムゾーンが「Asia/Tokyo」に設定されていることを確認して下さい。また、Cache-Aシステムがインターネットに接続されている場合は、NTPを利用することもできます。

オプション設定を確認する

管理者メニューの「System Tools (システムツール)」→「Option Setting (オプション設定)」タブを選択すると、Cache-Aシステムの動作に関する設定を行なうことができます。各項目を必要に応じてオン/オフしてください。各項目の詳細説明はマウスオーバー時に表示されます。

LTOテープを装填する

設定内容を確認したら、LTOテープをスロットに挿入してください。この時、管理画面はユーザメニューの「File Manager（ファイルマネージャ）」に切り替えておきます。ファイルマネージャからは、テープを挿入した際の挙動やダイアログを確認することができます。



例えば、初めて使用するテープを挿入した場合、フォーマットするかどうかのダイアログが開きます。その他、テープや共有ボリュームの状況に応じて様々なダイアログが表示される場合があります。ダイアログが表示された場合は、内容に応じて正しいボタンを選択して下さい。LTOテープが正しく装填されると、ファイルマネージャのテープディレクトリには挿入したテープのメディアIDが表示されます。

アーカイブする

LTOテープが正しく装填されると、アーカイブを行うことが可能になります。Cache-Aシステムを使用して行えるアーカイブ方法は大きく分けて次の3パターンです。

方法1：NAS上のVTAPEにコピーする

Cache-Aシステムは、デフォルトでSMB、AFP、NFS、FTPプロトコルでファイル共有を行うサーバとして稼働します。

- (1) Windowsの場合はSMB、Macの場合はAFPで共有ボリューム「Cache-A」をマウントする
「ID：cache」「パスワード：cache123」
- (2) 共有ボリュームの直下にある英数字10文字のフォルダ（VTAPEフォルダ）にデータをコピーする

方法2：接続したストレージから直接アーカイブ

Prime-Cacheの場合はUSB、Pro-Cacheの場合はUSBに加えてeSATAやExpressCardで増設したFireWire800などの端子に接続した外部ストレージから直接アーカイブすることができます。

- (1) 外部ストレージを接続する
- (2) ファイルマネージャのソースディレクトリの表示をリロードして、外部ストレージに切り替える
- (3) 表示された外部ストレージのディレクトリからアーカイブしたいファイルやフォルダを、右側のテープディレクトリにドラッグアンドドロップする

方法3：ネットワーク上のボリュームをアーカイブ

Cache-Aシステムは、ネットワーク上のNFS、SMBファイル共有ボリュームをマウントすることができます。

- (1) 管理画面から「Mount Manager（マウントマネージャ）」を開く
- (2) ネットワーク上の共有ボリュームを選択して「Mount（接続）」ボタンをクリック
- (3) ユーザメニューのファイルマネージャで表示してドラッグアンドドロップでアーカイブを行うか、管理メニューの「Backup Schedules（スケジュールバックアップ）」を使用することができます

ファイルを管理する

アーカイブされたデータは、そのディレクトリ構造やファイルのメタデータと共に、Cache-Aシステム上のデータベースに保存され、テープが装填されていない状態でもカタログデータとして検索したり、検索のためのキーワードを付加したりすることができます。

ファイルを検索する

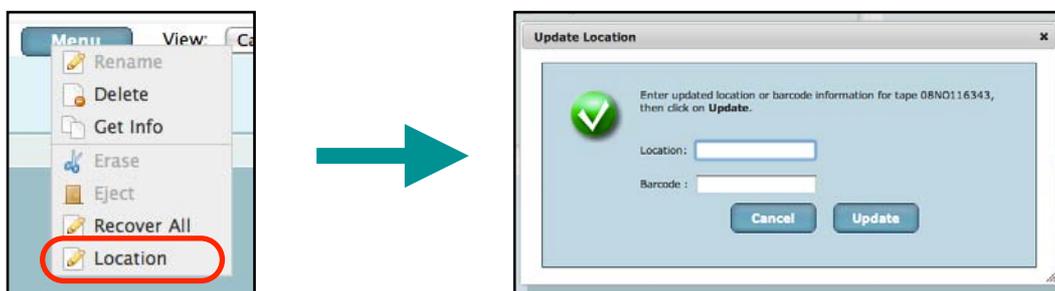
ファイルマネージャのテープディレクトリで「Search（検索）」ボタンをクリックすると、検索用のダイアログが表示されます。検索フィールドに文字列を入力してください。ファイル名以外にも、次に説明するキーワードなどが検索対象となります。



場所／キーワードを入力する

ファイルマネージャのテープディレクトリで、ファイルやフォルダまたはテープを選択した状態で「Menu（メニュー）」ボタンをクリックし、ポップアップメニュー内の「Location（場所）」を選択します。

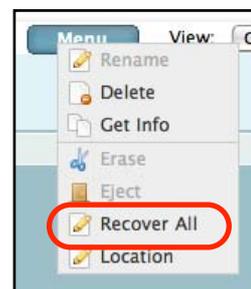
ファイルやフォルダを選択した場合は「Location（場所）」と「Keyword（キーワード）」、テープを選択した場合は「Location（場所）」と「Barcode（バーコード）」を設定できます。



これらは検索の対象になりますので、検索しやすい語句を登録してください。キーワードはカンマで区切って、複数の単語を登録することができます。

LTOテープからリストアする

LTOテープからアーカイブされたファイルをリストアする場合は、管理画面のファイルマネージャから行います。テープの内容をすべてリストアする場合は、メニューボタンから「Recover ALL (全てをリストア)」を選択します。個別のファイルやフォルダをリストアする場合は、テープディレクトリからソースディレクトリにファイルやフォルダをドラッグアンドドロップします。この時に「Shift」キーを押しながら選択すると、複数のファイルやフォルダをリストアすることができます。また、検索結果からのリストアやソースディレクトリの表示を変更して直接外部ストレージへリストアすることも可能です。



LTOテープを取り出す

LTOテープを取り出す場合は、管理画面のファイルマネージャから行ってください。メニューボタンの「Eject (取り出し)」を選択します。本体の取り出しボタンは使わないようにしてください。

電源を切る

Cache-Aシステムの電源を切る場合は、管理画面の管理者メニューから「Shutdown (システムの終了)」をクリックしたあとに「Shutdown」を選択してOKボタンをクリックします。Cache-Aシステムはシャットダウン時に自動的にLTOテープを排出します。終了処理には最大2分程度かかる可能性がありますのでご注意ください。なお、本体の電源ボタンは電源を切る場合には使用しないでください。